

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600826		
法人名	社会福祉法人希望の里		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	苫小牧市字錦岡521番地444 (電 話) 0144-68-7531		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 420 円
	夕食	440 円	おやつ 円
または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	7	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 77.1 歳	最低 53 歳	最高	97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団平成醫塾 苫小牧東病院・医療法人社団 苫小牧緑ヶ丘病院・榊原歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は近隣に同一法人が運営する他事業所や、公園・温泉・キャンプ場があるなど、自然に恵まれた環境に立地している。重度化・終末期に向けての方針を明確にし、利用者本人・家族と十分に話し合い、医療機関とも連携を取りながら適切に対応している。また、家族がいつでも宿泊できるように予備室として一部屋を設けたり、来訪の際に利用者と家族がゆったりと過ごせるよう法人のゲストハウスを提供するなど、柔軟な支援を実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における課題であった理念の掲示については、共用空間の見やすい場所に掲げるなど、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価に際して全職員で話し合い取り組んでいる。また、職員の気付き等を毎月のユニット目標として掲げ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、事業所での取り組み状況や、事業所と地域との関わり方等について話し合っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の来訪時に利用者の日常生活の様子を伝え、その際に家族の意見・要望・悩み等について話し合う機会を設けている。また、遠方のため頻繁に来訪できない家族には機関紙とともに便りを送付し、利用者の様子を伝えている。家族から意見等を受けた場合は速やかに対応し、日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑤	夏祭りなどの母体法人の行事に地域住民も多数参加しており、地域に定着した行事の一つとなっている。また、利用者の趣味を活かした家庭菜園での収穫物を販売所を設けて提供することを検討するなど、地域に根ざした取り組みに努めている。近隣大学の学生ボランティアとの交流も多く、地域との連携を密に図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域において馴染みの暮らしを継続していくための理念をつくりあげ、日々のケアサービスを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の見やすい場所に理念を掲示している。また、職員は理念を明記したカードを携帯し、常に理念を意識しながらその実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、近隣大学での催しものに出向くなど、地域との交流を図っている。また、法人の夏祭りには近隣住民が多数参加しており、地域に定着しつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また、気付き等を毎月のユニット目標として掲げ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・町内会役員・地域包括支援センター職員等を構成員とし、2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。会議では事業所の取り組み状況やサービス内容等について報告し、意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は生活保護法の指定を受けており、市の担当者と密に連携を取りながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態・金銭管理等について伝えている。また、遠方在住のため頻繁に来訪できない家族には、機関紙とともに便りを同封し、利用者の状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時に話し合う機会を設け、家族の意見・要望等を聞き、日々のケアサービスに反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動等は最小限となるよう努めている。また、夜勤専門職員を配置するなど、職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内部・外部の研修に参加する機会を設けている。しかし、全職員が参加するまでには至っていない。	○	今後は全職員が定期的に内部・外部の研修に参加する機会を設け、研修の記録を残し共有するなど、職員のスキルアップを図ることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に3回、市内の同業者と意見交換等で交流する機会を設けており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族と十分に話し合い、意見や要望等を確認している。また、事業所を訪問してもらい、馴染んでからの入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の興味や経験を活かせるよう配慮し、支え合う関係を築けるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の利用者との関わりの中から希望や意向の把握に努め、その人らしい生活となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成しているが、各目標の期間設定や担当職員の明示、各サービス内容の具体化がされるまでには至っていない。	○	今後は介護計画の期間を設定し、担当職員を明確にすることが期待される。また、アセスメント結果を反映し、より具体的な内容となるよう取り組むことが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画書を作成しているが、その際にモニタリングを実施するまでには至っていない。	○	今後は定期的に介護計画の見直しを行うとともに、状況変化に応じてそのつど話し合い、利用者の現状に即した計画となるよう取り組むことが期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じ、事業所の菜園で作った農作物を無人販売所で地域に安く提供する計画を立てたり、家族が宿泊できるような体制を整えるなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医への定期的な受診支援を行うとともに、状況変化に応じて対応できるよう協力医療機関と連携を図っている。また、同一法人の他事業所の看護師に、利用者の健康状態について相談できる体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けての方針を明確にし、本人・家族に説明をし同意を得ている。また、かかりつけ医や協力医療機関とも連携を図り、適切に対応できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬意を持ち、誇りや自尊心を損ねることのない声かけや対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、一人ひとりの希望や習慣に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を考慮した献立を作成し、食事を楽しんでいる。	○	今後は、利用者も食事の準備や後片付け等を職員と一緒にいき、ともに食事を摂ることが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日程・時間を決めて週に3回の入浴支援を行っている。しかし、夜間に入浴できるような体制を整えるまでには至っていない。	○	今後は、利用者の希望や生活習慣に応じ、一人ひとりが入浴時間等を選択できるよう対応することが期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を踏まえ、得意なことを発揮できるような役割の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、利用者の希望に沿った外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間帯は施錠しているが、日中は職員の見守りや声かけにより、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回火災や地震等を想定した避難訓練を実施している。	○	今後は夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけることが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を毎日個別に記録し、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。また、定期的に母体法人の栄養士に献立を確認してもらっており、栄養バランスの取れた食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は装飾品や音楽により季節感や生活感を感じられるよう工夫している。また、温度・湿度に関して適宜調整しており、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。